

公共交通 メールマガジン

平成29年
12月27日発行

編集：国土交通省
総合政策局公共交通政策部



平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。
今回は以下のラインナップでお送りいたします。

 平成30年度予算概算決定について ～持続可能な地域公共交通ネットワーク等の実現～
(総合政策局 公共交通政策部 交通支援課)

 「平成29年度 地域公共交通研修（中国ブロック）」を開催しました。
(中国運輸局)

 「第4回おでかけ交通博2017 in きたかみ」～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～
を開催しました。
(東北運輸局)

 「平成29年度近畿運輸局バリアフリー化推進功労者表彰式」及び「バリアフリーなまちづくりを考えるつどい」を開催しました。
(近畿運輸局)

 平成29年環境保全優良事業者等大臣表彰 エコ通勤部門は愛媛県が受賞
(総合政策局 公共交通政策部 交通計画課)

 「地域公共交通人材育成研修」を実施しました。
(北海道運輸局)

 第69回さっぽろ雪まつり 大通会場西12丁目に「のりたろう」雪像が登場します！
(北海道運輸局)

<掲示板>

- ☆ 地域公共交通支援センターについて
- ☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について



平成30年度予算概算決定について
～持続可能な地域公共交通ネットワーク等の実現～
(総合政策局 公共交通政策部 交通支援課)

平成30年度予算については、平成29年9月からの財務省との折衝を経て、12月22日(金)に閣議決定されました。

「地域公共交通確保維持改善事業」については、全体で約209億円(対前年度比で約4億円の減額)の概算決定となりましたが、交通政策基本計画(平成27年2月13日閣議決定)に掲げられた目標の達成に向けて、計画に基づく施策の着実な進捗を図ることとし、全国各地における地域の多様な関係者の連携による生活交通の確保・維持や快適で安全な公共交通の構築に向けた取組を効率かつ効果的に支援していくこととしております。

具体的には、「持続可能な地域公共交通ネットワークの実現」を柱とし、

- ① 利便性と効率性のバランスがとれた持続可能な地域公共交通網への再編等への支援
- ② 地域特性に応じた路線バス、離島航路等の生活交通の確保維持の支援
- ③ ノンステップバスの導入、鉄道駅における内方線付点状ブロックの整備等のバリアフリー化の支援
- ④ 地域鉄道の安全性向上に資する設備や車両の更新等の支援

などを実施することとしております。

この他に、復興庁計上分として、東日本大震災の被災地におけるバス交通等の確保のため、約12億円が概算決定されました。

本制度の詳細については、最寄りの地方運輸局又は地方運輸支局までお尋ね下さい。



「平成29年度 地域公共交通研修（中国ブロック）」を開催しました。

（中国運輸局）

平成29年10月18日～19日に中国運輸局にて、自治体、運輸局職員を対象として、22名参加のもと「地域公共交通研修（中国ブロック）」を開催しました。今回の研修では、これまでの座学中心の研修から、研修員同士が議論する中で、他の自治体の考えや取り組みを知り、今後、地域公共交通関連業務に従事するうえでの参考としていただくことを目的とした内容で実施しました。



研修のはじめに、岡山大学大学院環境生命科学研究科 橋本成仁准教授より、「交通計画策定における留意点」について講義いただき、地域公共交通を検討していくうえで地域公共交通会議を上手に活用し、実のある議論をする手法を学びました。地域公共交通会議の事務局を担う自治体担当者にとって、今後の会議運営に大いに参考となる講義でした。

続いて、自治体取り組み事例として、神石高原町より紹介いただきました。神石高原町では、平成29年4月より主要な路線は乗合バスを維持しつつ、タクシーによる移動を中心とした交通体系をスタートしており、導入経緯や利用状況、今後の課題等についてご紹介いただきました。特に、町内の移動で600円を超えた分のタクシー運賃を町が補助する「ふれあいタクシー」事業についての関心が高く、熱心な質疑がありました。

<参考>

ふれあいタクシー（神石高原町ホームページ）

http://www.jinsekigun.jp/user/filer_public/b6/8b/b68b7eb9-e029-4050-a907-9eded02c7868/.pdf

座学の講義の後、先の2つの講義を踏まえて実践的な研修に入りました。



まず、「ロールプレイング」として、地域公共交通会議を開催しているとの想定の下、各研修員が自治体役、住民役、事業者役等になりきり、それぞれの立場で発言、議論していただきました。これは、それぞれの立場で議論することで、それぞれの立場の考え方を理解し、今後の会議運営の参考にしてもらうことを目的に実施したものです。

次に、「課題討議」として、過程の2つの地域を設定し、それぞれ鉄道とタクシーが廃止の危機に直面した場合、どのように対応していくかについて、各班で討議、発表をしました。

実践的な研修は初めての取組でしたが、各研修員が積極的に議論に参加し、有意義な研修となりました。今後も、自治体のみなさまの一助となるような研修・勉強会等の実施に引き続き取り組んで参ります。

「第4回おでかけ交通博2017 in きたかみ」
～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～ を開催しました。

(東北運輸局)

東北運輸局では、平成29年11月17日(金)～18日(土)にホテルシティプラザ北上(岩手県北上市)において、「第4回おでかけ交通博2017 in きたかみ」を福島大学、北上市と共催しました。

おでかけ交通博とは、地域の「おでかけの足」のあり方を考えるため、地域公共交通の活性化等に頑張っている団体の方々が、参加者とのポスターセッションを通して成果や悩みなどの共有を図るものです。通算4回目となる本イベントに、当日は岩手県内外から地方公共団体、交通事業者、NPO団体等過去最大となる214名の参加をいただきました。特に地方公共団体の交通担当のみならず福祉担当者や高齢者の移動支援を行う福祉団体等の参加が前回までと比べて多かったことが印象的でした。



トークセッション with 東北仕事人

本イベントは高橋敏彦北上市長からのウエルカムメッセージで幕を開け、1日目午前の部では「トークセッション with 東北仕事人」と題して北上市及び関係者、有識者によるパネルディスカッションを行いました。はじめに、北上市から昨年策定した地域公共交通網形成計画の概要やステークホルダーからの取組事例発表があり、これらを受けて東北仕事人等から、他地域の事例を踏まえたアドバイスや提案がなされるなど、将来の北上市について白熱した議論が繰り広げられました。

1日目午後の部におけるポスターセッションでは、過去最多となる25団体からのポスター出展がありました。各団体による1分間のPRの後、メインとなるコアタイムでは、対面で公共交通に関する情報共有や意見交換が行われ、昨年以上に内容の濃いポスターセッションとなりました。参加者からは、「コンパクトに情報収集できる素晴らしい企画」、「担当者、事業者と直接対話・交流ができ、担当者の熱意が伝わった」等の声をいただきました。



ポスターセッション



エクスカーション (NPOくちない事務所にて)

2日目にはエクスカーションを行い、実際に北上市内で行われている「おでかけの足」の確保に向けた取組現場を視察しました(約60名参加)。当日は北上市口内(くちない)地区、まちなかターミナルに足を運び、バス停やバスロケシステム等導入の経緯を市担当者から説明を受けた後、事業者からは運行における苦労話や工夫点などを直接聞くことができました。参加者からは「住民主体で、特に高齢者の足を確保するという点が勉強になった」という声もあり、大変好評でした。

〈プログラム〉

【17日午前の部】

- ウエルカムメッセージ（北上市長）
- トークセッション with 東北仕事人～将来の北上市について～
（福島大学、北上市、NPO くちない、NPO-NE Tサポート、都タクシー、東北仕事人等）

【17日午後の部】

- 開催主旨説明（福島大学人文社会学群経済経営学類 吉田樹准教授）
- 1ミニッツPR（各出展団体から1分間のPRタイム）
- コアタイム（各ブースで出展者がポスターを用いて取組内容を説明。参加者と意見交換等を行う）
- 仕事人の時間（東北仕事人による高評価を示す「のりたろうシール付与&ひとことコメント」）
- 閉会后、交流会を実施

【18日午前】

- エクスカージョン（北上市口内地区、北上まちなかターミナル）

〈ポスター出展団体〉

【地方公共団体・協議会等】

- 岩手県 ■岩手県盛岡市 ■岩手県北上市 ■北上線沿線協議会 ■岩手県大槌町
- 岩手県岩手町 ■八戸市・公共交通アテンダントはちこ ■山形市・山交バス
- 弘前市地域公共交通会議・弘南鉄道大鰐線存続戦略協議会 ■千葉県南房総市
- 秋田県由利本荘市・由利高原鉄道 ■大郷明治交通サービス運営協議会
- 鶴岡市地域公共交通活性化協議会 ■金川町・田園町住民コミュニティバス運営協議会

【交通事業者】

- 岩手県交通(株) ■三陸鉄道(株) ■岩手県北自動車(株) ■秋田内陸縦貫鉄道(株)
- 郡山観光交通(株) ■(有)フタバタクシー

【NPO 団体等】

- 宮城インバウンドDMO ■バスと自転車の共存プロジェクト ■バス停検索
- いわて地域づくり支援センター ■福島大学経済経営学類 吉田ゼミ ■東北運輸局交通企画課



←のりたろう（右）と北上市観光キャラクター
おに丸くん（左）もおでかけ交通博を盛り上
げてくれました！

☆おでかけ交通博の詳細・資料等は東北運輸局ホームページにも掲載しています☆

<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/ks/new%20page/ks-sub10.html>

**「平成29年度近畿運輸局バリアフリー化推進功労者表彰式」及び
「バリアフリーなまちづくりを考えるつどい」を開催しました。**
(近畿運輸局)

平成29年11月30日(木)、大阪歴史博物館において「平成29年度近畿運輸局バリアフリー化推進功労者表彰式」を開催しました。

近畿運輸局では、バリアフリー化の推進に多大な貢献が認められ、かつ、顕著な功績又は功労があった個人又は団体を表彰し、優れた取組を広く普及・奨励するため、平成20年度から行っております。

今年度は、「大阪市交通局」と「西日本ジェイアールバス株式会社」を表彰しました。

●大阪市交通局

- ・可動式ホーム柵の設置時に、電車とホーム間の段差や隙間を解消する整備を進めている。
- ・多機能トイレに使用が集中しないような工夫を進めている。
- ・職員全員による見守り体制を構築し、一般のお客様にも共助のお願いに努めている。



大阪市交通局

●西日本ジェイアールバス株式会社

- ・運転士やバスターミナル社員によるサービス介助士や手話検定の資格取得を進め、お身体の不自由なお客様の立場に立って、安心してご利用いただける接客対応に努めている。
- ・聴覚障がいのお客様とのコミュニケーションを補助する機器「コミュン」等を設置するなど、ハード面の整備にも取り組んでいる。



西日本ジェイアールバス(株)

表彰式に引き続き行われた「バリアフリーなまちづくりを考えるつどい」では、受賞された両者から、その取組活動をご紹介いただいた後、大阪市立大学大学院 岡田明教授から「誰もが快適で健康的なものづくり・まちづくりの進め方」と題し、人間工学の立場から、様々なニーズを持つユーザーに対し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、より快適で使いやすいモノや環境づくりの課題等について、ご説明をいただきました。



バリアフリーなまちづくりを考えるつどい



岡田教授のご講演

また、本つどい初めての取組として、公益財団法人関西盲導犬協会の久保ますみ氏及び盲導犬ユーザーの森永佳恵氏より、視覚障害者が街や駅のホーム等を移動する時、どんなことに困るのかを具体的にご説明頂き、実際に盲導犬を使ったデモンストレーションを行い、盲導犬に対する理解を深めました。



久保氏、森永氏のご講演

最後に、島根大学大学院特任教授の田中直人教授からは、「バリアフリーの基準に甘んじることなく、基準を超えた所での取り組みやスパイラルアップの点で苦勞がある事が良く分かった。

また、人間工学の視点から、多様な人間の身体的データをどのようにユニバーサルデザインとして公共空間に活かすかは、まだまだ難しい。一方で障害当事者は、命がけの生活経験をされている。

その点を踏まえて、我々は基準に甘んじることなく、次の段階として、最近開発されている多くの機器等を利用し、加えて人が支え合うような仕組みを作ることが重要。」との総括が行われ、つどいは終了しました。



田中先生からの総括

2020年のオリンピック・パラリンピックの開催時には、関西へも多くの訪問客が予想されます。交通のアクセスや施設のバリアフリー化等ハード面の課題に加え、心のバリアフリーが如何に必要とされるかという事が、各講演者から共通して述べられていたように思います。

今後も関係者との連携を深めながら、バリアフリー化の推進に努めて参りますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

※「ユニバーサルデザイン」とは・・・

年齢、性別、障害など体の状況、文化や言語、環境など、さまざまな個性や違いにかかわらず、誰もが使いやすく生活しやすいデザインや気持ちのこと。また、そのように改善していこうという考え方のことです。



平成29年環境保全優良事業者等大臣表彰 エコ通勤部門は愛媛県が受賞
(総合政策局 公共交通政策部 交通計画課)

平成29年12月14日に平成29年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰式が行われました。

交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰は、環境保全に関する活動に積極的に取り組み、顕著な功績のあった事業者等を表彰するもので、低公害車導入等部門とエコ通勤部門があり、エコ通勤部門は公共交通機関等の利用促進を対象とし、エコ通勤優良事業所認証制度に登録された事業所より選考されます。

平成29年のエコ通勤部門では愛媛県が受賞しましたので、その取組についてご紹介します。



左：西本牧史愛媛県企画振興部長
右：石井国土交通大臣

【功績の概要】

「E列車・バスで行こう」推進事業にて、「愛媛県公共交通利用推進宣言」やノーマイカー通勤デーの実施等を通じ、県内企業や、一般県民などへ公共交通の利用促進を働きかけるとともに、「えひめツーキニストクラブ」の取組を通じて、自転車通勤の促進も図った。また、県下の他事業所の更新登録事務等を継続して執り行い、エコ通勤認証制度の普及にも努めている。

【取組内容】

○「E列車・バスで行こう」事業の推進

- ・愛媛県公共交通利用促進宣言、ノーマイカー通勤デーの実施、公共交通利用促進優良企業の認定を実施。
- ・ノーマイカー通勤デー参加者に対し、取組日の協賛店での割引を実施。

<参考>

E列車・バスで行こう！（愛媛県ホームページ）

<http://www.pref.ehime.jp/h12300/e-train/index.html>

○「えひめツーキニストクラブ」の取組

- ・「自転車ツーキニスト」の取組を個人で行える様に、「えひめツーキニストクラブ」と位置づけ、自転車による通勤の促進、CO₂の排出量削減に貢献。

○エコ通勤優良事業所認証制度の普及

- ・認証制度をホームページ等で紹介するとともに、認証登録事業者に代わり一括して事務手続等を行うことで、エコ通勤の普及に努めている。

国土交通省では、「エコ通勤」に取り組む際に参考にさせていただくためのポータルサイトを運営しております。是非ご参照ください。

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/ecommuters/>

「地域公共交通人材育成研修」を実施しました。

(北海道運輸局)

国は、地方公共団体が中心となり、コンパクトなまちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの再構築を図ることを目的に、地域公共交通活性化再生法を制定しています。この法律では、国の役割として「人材育成及び情報提供」を求めており、北海道運輸局では、地方公共団体の交通担当職員を対象とした研修やセミナー等の実施を通じて、地域の交通政策に係る情報やノウハウの収集及び蓄積の強化に取り組むこととしています。

そこで、地域公共交通マイスターとして、全国的な事例に精通している特定非営利活動法人まちづくり支援センター 為国代表理事及び国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 酒井課長補佐を講師に迎え、「地域公共交通人材育成研修」を平成29年11月29日(水)～11月30日(木)に開催しました。2日間で30自治体35名の自治体職員の方々にご参加を頂きました。



為国 孝敏 代表理事



酒井 達朗 交通計画課課長補佐

1日目は、酒井課長補佐より「地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画」に関する講義、為国代表理事より「まちの活力を育む地域公共交通の作り方」と題して公共交通とまちづくりについて講演いただきました。

2日目は、自治体職員の皆様が地域公共交通のあり方を検討する際に、困っていることや悩んでいることについて、為国代表理事を講師として意見交換会を実施し、地域公共交通の検討に資するアドバイスをいただきました。その後、申込のあった自治体を対象とした個別相談会も開催し具体的な今後の取組や課題に対する解決策について相談が行われました。



個別相談会

人材育成研修の開催概要及び資料は、以下の北海道運輸局HPに掲載しております。

http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu/75jinzaiikusei/index_jinzaiikusei.html

第69回さっぽろ雪まつり

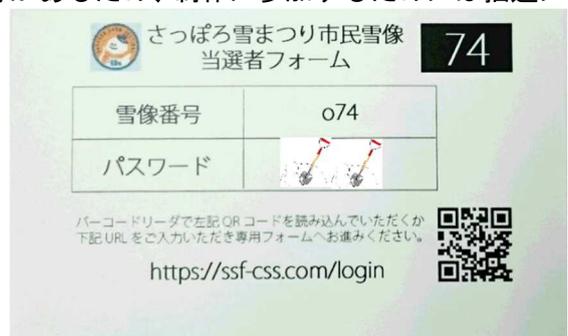
大通会場西12丁目に「のりたろう」雪像が登場します！

(北海道運輸局)

毎年多数の観光客で賑わう「さっぽろ雪まつり」。第69回さっぽろ雪まつりは平成30年2月5日（月）～平成30年2月12日（月）の期間、札幌市内3会場で開催されます。（つどいむ会場のみ2月1日（木）から開催）

会場の1つとなる大通公園では大雪像の他に市民雪像も並びますが、今回、北海道運輸局として公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」の雪像を制作すべく、雪像プロジェクトチームを結成し、市民雪像の制作に応募しました。例年、募集数を大きく上回る応募があるため、制作に参加するためには抽選による狭き門を通過しなければなりません。

今回は、市民雪像枠が78基のところ、なんと過去最高の865件（約11倍）の応募があり、平成29年12月12日（火）に抽選会が開催されました。ステージ上の司会者が抽選箱から番号札を引き、当選チームを呼び出しますが、なかなか呼ばれず、半ば諦めムードが漂う中・・・会場内に北海道運輸局の雪像プロジェクトチームの番号が響きわたりました！



見事当選！



雪像制作準備のための小道具

これから、雪像制作に向けて準備を進めて参りますので、次号メルマガでは進捗状況を報告させていただきます。

「のりたろう雪像」は大通会場の西12丁目でお待ちしておりますので、是非会場でお会いしましょう。

最後になりますが、のりたろうからのお願いです。

「会場への交通手段は、公共交通機関にのろう！」



< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので100歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて1名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html

